

【内山田会議所会長 発言要旨】

本日は、甘利先生からは自動車産業に対する大きなエールと、将来のビジネスモデルに対する叱咤というか、示唆をいただきました。また、カーボンニュートラル、これはわれわれも絶対に2050年までにはライフサイクルで実現しないとイケないわけですが、そこに対して今の日本の自動車産業がとっておりますマルチパスウェイ、そしてeフューエルにまで踏み込んで大なる示唆をいただき、大変ありがとうございます。また、政策面でもそういうものが実際に実現するように、GX基金の適用や活用なども踏まえて推進していただいていることに改めてお礼を申し上げます。

税制につきましては、先般の参議院本会議での総理のご回答の中に、「安定的な財源確保が前提」という発言があり、甘利先生も「特に地方税のところが難しい」と話されていました。私も全国知事会や総務省と意見交換をしても、なかなか理解いただけません。ただ全国知事会の一部には、結局、地方の財政を支えているのも自動車産業であり、自動車ユーザーだと認識されている方もいます。

東京などの大都市と違い、地方に行きますとクルマは一家に一台ではなく、ともすると一人に一台のところも多く、そうしたユーザーの皆さんが大きな税負担に喘いでおられるということ、一部の知事の方には理解いただいています。総務省の方と時々

お会いするときに話をするのですが、「安定的な財源の確保とおっしゃるのなら、携帯に税金をかければいいじゃないですか」と。「携帯を買う」「携帯を持つ」「携帯を使う」、この3段階すべてに税金を課せば、安定的な財源の確保の一助になるはず。そう言う、「いや、これは社会にとって必需品だから、そんなことはできません」とおっしゃるんですけれども、「いやいや、自動車だって一緒ですよ」と言っても地方税のところは非常にガードが固い。

われわれ自動車会議所としては、受益と負担という大きなところから税体系を抜本的に見直していかなければならないと考えており、カーボンニュートラル実現に向けた大変革期こそが従来の税体系で処理することが難しい事態を打開する、ある意味、大きなチャンスではないかとも思っています。

いずれにしましても甘利会長をはじめ自動車議連の皆さんと連携をしながら進めてまいりたいと思いますし、甘利会長は自動車産業の将来に対する高い識見をお持ちであり、われわれ自身の問題点、われわれの抱える問題点や課題なども認識をされておられます。これから是非、勉強してまいりたいと思いますので、できれば本日のような会合を、2024年度は2、3回開催させていただき、もっと本音の議論をして理解を深めてまいりたいと思います。

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

会員研修会「第300回記念講演会」を4月23日(火)に開催**日本自動車会議所 講師は当会議所の内山田竹志会長**

日本自動車会議所主催の会員研修会が、このたび開催300回を数えることになりました。これもひとえに、皆さまのご支援とご協力の賜物であり厚く御礼申し上げます。つきましては、記

念講演会を下記のとおり開催させていただきます。講師は、当会議所の内山田竹志会長＝写真＝が務めさせていただきます、カーボンニュートラルへの対応や、来るべきクルマ社会について展望いたします。

なお、詳細につきましては、後日、改めてご案内いたします。

記

【日時】2024年4月23日(火) 15時00分～16時30分

【場所】AP浜松町(芝パークビルB館 地下1階)
※日本自動車会館ではありません。

【テーマ】「カーボンニュートラルへの対応や
将来のクルマ社会について」(仮題)

【講師】日本自動車会議所会長

トヨタ自動車 Executive Fellow

内山田 竹志